

## おちびさんじやないよ

小豆島町立安田小学校一年 西濱 朝柊

わたしは、からだが小さいです。二つ年上のおにいちゃんは、わたしのことを、

「おい、ちび。」

といつてからかうことがあります。そんなときわたしは、「ちびじゃないよ。あさひだよ。」といいかえします。わたしには、もうすぐ二さいになるいもうとがいます。

五さいも年がちがうのに、たいじゅうはたつた四キロしかかりません。

「小さいのはべつにいやじやないけれど、いもうとには、ぬかれたくないな。だつて、わたし、おねえちゃんだもの。」

ようちえんのころは、たいじゅうがなかなかふえず、おとうさんもおかあ

やおにいちゃんにかこまれたときのわたしとそつくりにおもえたからです。わたしは、本をかりると、すぐによんでみました。

この本は、からだが小さいけれどなんだけできるテンちゃんが、てん校生のマルくんをいじめつこからまもり、

マルくんのともだちだい一ごうになるかつこいいおはなしでした。マルくんもテンちゃんとおなじようにからだが

とつても小さな男の子です。マルくん

とテンちゃんのちがうところは、テンちゃんはからだは小さいけれど、むず

かしいもんだいをといたりともだちの

ことをしんぱいしたりいじめつこにたちむかっていつたりしてこころはとつても大きくてかつこいいところです。

わたしは、この本をよむまでは、お

とうさんのようにせが大きくて、力も

ちなところがずっとかつこいいとおもつっていました。だから、せがたかくで

かつこいい人になりたくつてバレーボ

さんも、「大じようぶかな。あさひ大きくなるかな。」

としんぱいしたそうです。

「やつぱり、大きくなりたいな。」

なつ休みにいつたとしよかんで、『お

ちびさんじやないよ』という本を見つけました。

ながい足のせがたかい人たちのあいだに、ちょこんと立つている小さな女の子。

「くるくるのかみのけがかわいいな。」

小さな女の子のひょうしのえがとつても気になりました。ちょっとドキドキしました。

「なんだか、わたしみたい。」

せのたかいおとうさんやおかあさん

「あさひだもん。おちびさんじやないよ。たいようみたいなぽかぽかのあさひだよ。」

りたいです。だから、これからも、ともだちにやさしくしていきます。

だつて、わたし、

「あさひだもん。おちびさんじやないよ。たいようみたいなぽかぽかのあさひだよ。」

「からだが小さくたつて、せがひにく

たつて、たいじゅうがかるかつても、わたしは、おちびさんじやないよ。

わたしの名まえは、せかい中の人にな

さくせんを立てて、おともだちにやさ

しくしていたら、なぜかあまりなかなかなりました。じぶんの気持ちを大き

なこえでいっていたら、なぜか、すつ

きりするようになりました。

わたしは、いやなことがあつたらすぐになみだがでていたけれど、テンちゃんの本をよんでも、でつかくなるぞう

さくせんを立てて、おともだちにやさ

しくしていたら、なぜかあまりなかなかなりました。じぶんの気持ちを大き

なこえでいっていたら、なぜか、すつ

きりするようになりました。

「からだが小さくたつて、せがひにく

たつて、たいじゅうがかるかつても、わたしは、おちびさんじやないよ。

わたしの名まえは、せかい中の人にな

たたかいひかりをとどけるあさ日

とおなじ名まえ。むちやくちや大き

いです。せかいに一つしかない、

たいようのあさのひかり、すてきで

しょ。」

たいようのひかりだから、とつて

もあたたかいはずです。わたしは、

『おちびさんじやないよ』のマルち

ゃんに出あつて、大きな女の子にな

れたような気がします。ころが大き

いすてきな女の子マルちゃん。わ

たしも、マルちゃんにまけないくら

いこころが大きいあたたかな人にな

るのもはじめました。けれども、からだが小さくつてもテンちゃんのようにもだちをまもつてあげられたら、それもとつてもかつこいいとおもいました。テンちゃんはおおものです。

「わたしも、テンちゃんみたいなおおものになりたいな。せをのばすことには、すぐにはできないけれど、おおものなら、すぐにでもなれるかもしれない。」

わたしは、おおものになるためのさくせんを立てました。名づけて、「でつかくなるぞうさくせん」です。

一こまつている人を見つけたら、わたしのとくいな大きなこえで「先生、きて」とよびます。

二すきまに入つてとれないとき、小さなからだをつかつてわたしがすぐによくかんがえてときます。

四じぶんできることとは、じぶんでします。五だれにでも、やさしくします。